



柏林台出張所の建設を開始します

2020年9月頃運用開始

西出張所と緑ヶ丘出張所を統合し、柏林台地区に新たに柏林台出張所を建設する工事が、6月から始まります。

問い合わせ とかち広域消防局消防救助課（西6南6、消防庁舎3階、26・9122）

消防出張所を統合し機能強化を図ります

建築から50年以上経過し、老朽化が進んでいる帯広消防署西出張所（西19北1）を、柏林台出張所として柏林台西町に移転新築するとともに、緑ヶ丘出張所（緑ヶ丘東通西1）と統合し、消防活動の拠点となる施設としての機能強化を図ります。

各種災害への初動体制を強化

柏林台出張所は、大規模な地震に耐える十分な強度を備え、停電時においても施設の機能を維持できるように非常用発電設備を設けます。また、市消防団帯広第3・4分団詰所を併設し、消防職団員や消防車両を集結させ、各種災害への初動体制を強化します。

訓練や研修施設を充実

柏林台出張所は、消防職団員の訓練研修施設として、西出張所の約2倍の敷地面積を確保し、敷地内に鉄骨製の訓練施設を併設します。さらに研修室も備えるため、住民向けの救命講習や、防火・防災訓練の実施が可能になります。

6月から柏林台出張所の建設工事を開始

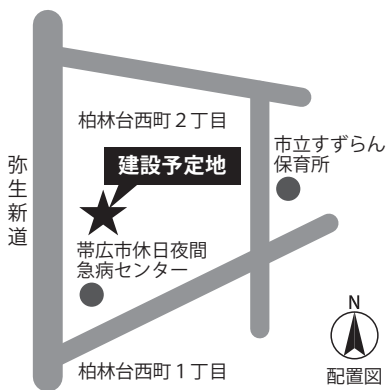
柏林台出張所は、6月から建設工事を開始し、来年6月の完成を予定しています。その後、移転作業を行い、来年9月頃に運用を開始する予定です。工事期間中の消防車両の配置などはこれまでと変わりますが、柏林台出張所の運用開始に伴い、西出張所と緑ヶ丘出張所は閉所します。

2020年運用開始 帯広消防署 柏林台出張所



柏林台出張所の主な特徴

- 一般的な建築物の1.5倍の耐震性能を確保。
- 停電時においても消防活動の拠点となる施設としての機能を維持するため、非常用発電設備を設置。
- ホース乾燥塔の壁面にはしご訓練、ロープ訓練の設備を設置。
- 地域住民を対象とした応急手当普及講習などができる研修室を設置するとともに、防火・防災訓練の実施に十分な敷地面積を確保。
- 消防職団員の訓練研修施設として、西出張所の約2倍の敷地面積を確保したほか、敷地内に鉄骨製の訓練施設を併設。
- 施設の省エネルギー化を推進するため、LED照明器具や太陽光発電設備を採用。



概要	
建設地	柏林台西町2丁目1 ほか
敷地面積	5040㎡
庁舎建築面積	639.85㎡
庁舎延べ面積	914.88㎡
構造	2階建て
建設期間	2019年6月～2020年6月（予定）
運用開始	2020年9月頃
配置車両	水槽付消防ポンプ自動車2台、消防ポンプ自動車（消防団）2台、非常用救急自動車1台

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

八千代牧場で夏空を

帯広市長 米沢 則寿



取扱高は年々増えてきており、昨年は農業全体の6割を占めました。飼養頭数は、十勝の全人口の1.3倍、約45万頭と、畜産でも日本有数の地域に成長しています。

「十勝のミルクは、モノが違う」大手乳業メーカーの役員が、そう言ってくれたことがあります。乳質や成分が優れていて、一段とおいしく感じるのだそうです。また、生乳の生産量が全国的に減少している中で、十勝の生産量が安定していることも、常に上質な生乳を大量に調達する必要がある大手企業にとっては、重要で心強いとも言っておられました。

おとしから民間企業と共同で始めたプロジェクトでは、十勝で発見されたオリジナルの乳酸菌を用いたヨーグルトが開発されました。商品のパッケージには「なつぞら」のロゴや「十勝」の文字が大きくデザインされています。

今、パンやチーズなど、十勝の原料を使い、名称にも「十勝」が使われた商品を全国展開する企業が増えています。「食」や「農」といった十勝の豊かな資源の価値が認められ、さらなる付加価値向上に結び付いているからではないでしょうか。

外からも評価されることは、私たちに自信と誇りを与えてくれるだけでなく、地域の価値に対する気付きにもつながります。「なつぞら」の放送を通じて、十勝・帯広の魅力や可能性がさらに広く伝わることに期待しています。

6月16日には、大自然の下の農業や食の恵みを体感できる「八千代牧場まつり」が開催されます。緑豊かな高原で、少し早い夏空が見られるといいですね。

4月から、連続テレビ小説「なつぞら」が始まっています。番組のイメージポスターに写っていたのは、笑顔の「なつちゃん」とツーショットの存在感たっぷりな「牛」です。ドラマの序盤は、牧場や酪農のシーンが多く、ロケの場所や地元の牛たちが登場していることも、話題になっていました。

帯広で牧場といえば「八千代牧場」を思い浮かべる人が多いと思います。十勝幌尻岳の裾野に広がる敷地は、グリーンパークのおよそ122倍にもなります。正式には、「八千代公共育成牧場」といいますが、国営事業として、自給飼料の生産拡大や畜産農業の牛を育成する目的で、昭和57年に完成しました。今も夏になると、延べ12万頭を超える牛が、草をはむ様子を見ることが出来ます。

帯広では、畑作が盛んですが、十勝管内における畜産部門の農協